

認定介護福祉士資格取得者における資格取得後の変容

野田由佳里^{*,1)}、植田裕太郎²⁾

¹⁾聖隷クリストファー大学、²⁾群馬社会福祉専門学校

I. 目的

介護福祉士の上位資格として『一般社団法人 認定介護福祉士認証・認定機構』が認証・認定をしている民間資格認定介護福祉士を対象とし、資格取得過程において、何に影響され、具体的にどう変化したかの変容の実際を明らかにすることである。

II. 方法

インタビュー調査（倫理承認番号 20044）

調査対象者：スノーボール方式によって調査協力を得られた認定介護福祉士

データ分析：質的研究法・事例コードマトリックスの作成

III. 結果

倫理委員会承認後の 2020 年 11 月 9 日～12 月 6 日で行った。

(1) A さん・60 代女性・介護経験 17 年・介護事業所経営・2019 年度講習修了

(2) B さん・30 代女性・介護経験 16 年・職能団体勤務・2018 年度講習修了

(3) C さん・50 代女性・介護経験 27 年・介護事業所経営・2018 年度講習修了

A さん・B さん・C さんのインタビュー内容から導き出された概念的カテゴリーは以下の表の通りである。

明確な受講動機	・内発的動機づけ ・外発的動機付け ・受講促進要因
現場の危機意識	・介護現場の実態
葛藤や躓き	・研修中の葛藤
現場への還元	・取得後の心境変化 ・習得できたスキルや現場への応用
介護業界への問題提起	・介護に期待されるもの ・養成カリキュラム ・資格制度への期待 ・地域への還元

IV. 考察

資格取得者のインタビューを通して、研修継続の困難性が、勤務調整や課題ではなく、《モチベーションの維持》であり、《時間的拘束と経済的負担感》を抱きながらも《切磋琢磨できる存在》である仲間との《支え合い》が大きく、何よりも受講生自身が資格取得に対して《求める力・律する心》が重要な要因になっていた。介護現場は単純な人手不足という量的確保という問題に加え、質の担保が重要になっている。そのため、多様な人材参入に対応するためにマネジメントができる人材であり、蓄積してきた介護福祉実践を介護職チームとして機能させる能力が認定介護福祉士に備わっていた。

V. 結論

認定介護福祉士資格取得後の変容から、介護人材として、地域で活躍するだけでなく、介護学生の憧憬の思いの対象となるキャリアモデルとなり、今後の介護業界を牽引する可能性を見出せた。